

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年11月11日
【四半期会計期間】	第43期第2四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	株式会社ハークスレイ
【英訳名】	HURXLEY CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 青木 達也
【本店の所在の場所】	大阪市北区鶴野町3番10号
【電話番号】	06（6376）8088（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部経理部部長 遊上 利之
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区鶴野町3番10号
【電話番号】	06（6376）8088（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部経理部部長 遊上 利之
【縦覧に供する場所】	株式会社ハークスレイ 東京本社 （東京都港区浜松町2丁目4番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） （注）上記の東京本社は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第2四半期 連結累計期間	第43期 第2四半期 連結累計期間	第42期
会計期間	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2020年4月1日 至2020年9月30日	自2019年4月1日 至2020年3月31日
売上高 (百万円)	23,743	17,066	47,382
経常利益 (百万円)	621	425	1,244
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	487	222	1,276
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	364	209	1,104
純資産額 (百万円)	20,611	20,813	21,192
総資産額 (百万円)	35,836	34,219	35,564
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	51.88	23.99	135.72
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	57.5	60.8	59.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,016	486	1,697
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	282	1,155	1,817
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	674	377	2,515
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	6,616	5,534	7,554

回次	第42期 第2四半期 連結会計期間	第43期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年7月1日 至2019年9月30日	自2020年7月1日 至2020年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	22.48	15.11

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当社グループは、一貫して「食に対する安心、安全」へのこだわりをビジネスの中心に据え、お客様のニーズにあった商品の開発強化とともにサービスの改善・提供を進め、当社グループの価値の向上に努めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高170億66百万円（前年同四半期比28.1%減）、営業利益1億81百万円（同61.2%減）、経常利益4億25百万円（同31.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益2億22百万円（同54.3%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

#### 持ち帰り弁当事業

持ち帰り弁当事業においては、地域の皆様の豊かな食生活に貢献する「わたしの街の台所」として、手作りによる家庭の温もり、まごころ、安心感をお届けする信頼の食を追求しております。

7月はほっかほっか亭看板商品のひとつ、「唐揚」をリニューアルいたしました。塩麹に漬け込み柔らかくジューシーでクリスピーな衣へ変更し、同時に唐揚を中心としたキャンペーンを展開いたしました。アプリでは唐揚をお試して1コプレゼント、SNSではインスタントウィンによる唐揚弁当プレゼント、楽天ポイントでは唐揚10コ分の楽天ポイントをプレゼントするなどライトユーザーからコアユーザーまで幅広くリーチ出来るよう告知を展開いたしました。8月にはカレーを「特製カレー」へとリニューアルいたしました。自分好みにアレンジができるよう9種類ものトッピングメニューを導入いたしました。また、お子様向けのお弁当「すみっこぐらしべんとう」やオードブルの購入を対象に「夏のすみっこぐらしキャンペーン」と題したオリジナルすみっこぐらしマグカップをプレゼントするキャンペーンを実施し、たくさんの反響をいただきました。季節が変わり、9月には秋の定番商品、風味香る「松茸弁当」を発売、中旬には「なす味噌弁当」の発売とお弁当店としてお客様を飽きさせない商品を連続して投入いたしました。

持ち帰り弁当事業は、売上高80億34百万円（前年同四半期比7.3%減）、営業利益4億97百万円（同1.1%増）となりました。

#### 店舗委託事業

店舗委託事業においては、第1四半期に引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、飲食店を中心とする委託店舗の売上高が減少いたしました。4月～5月のような大きな売上減少は回避されましたが、通常状態に比べその影響は依然大きい状況にあります。同影響を抑制するため、第1四半期に引き続き、各委託店舗及びビルオーナーとの緊密な連携による空室の抑制と低採算店舗の入替による物件稼働率の向上により、事業の安定化を図ってまいりました。また、従来からの取り組みである自社運営Webメディア「店通（てんつう）」を通じた店舗業界への情報発信による当社ブランドの浸透と合わせてサービス向上への取組みを継続してまいりました。更に、当社のコーポレートサイトを一新し、スマートフォンからのアクセスを向上することで、お客様への訴求力の向上に努めてまいりました。

店舗委託事業は、売上高70億73百万円（前年同四半期比44.3%減）、営業利益4億36百万円（同0.7%増）となりました。

#### 店舗管理事業

店舗管理事業においては、新型コロナウイルスによる物件の稼働休止、関連収益機会の減少などの影響を受けましたが、かかる状況下においても、ビルオーナーと緊密な連携を更に充実させて、資産価値を向上するための運用提案、ビルの管理関連サービスの積極的な展開、様々な業態のテナントオーナー向けのサブリースの拡大などを確実に実施してまいりました。なお、前連結会計年度末の保有物件売却の影響により前年対比の営業利益が減少しておりますが、当連結会計年度に2棟の商業ビル購入に加え3つ目のTRUNKシリーズビルの竣工により収益の拡大を図っております。

店舗管理事業は、売上高3億56百万円（前年同四半期比2.4%減）、営業利益1億3百万円（同43.8%減）となりました。

#### 物流食品加工事業

物流食品加工事業においては、物流・商流ともに全国規模の営業活動を展開し、着実に成果を上げています。また、カミッサリー拡張工事も順調に進み年内の完工を見込んでおり、第2カミッサリーの稼働開始を見据えた、新商品の開発や取引先の新規開拓への取り組みも強化しております。今後も、FSSC22000の確固たる食品安全基準を維持し、お客様への安心安全の提供に注力してまいります。

物流食品加工事業は、売上高11億23百万円（前年同四半期比18.9%減）、営業利益53百万円（同41.2%増）となりました。

#### その他

フレッシュベカリー事業においては、「パインデニッシュ」「ラズベリーデニッシュ」をはじめとするフルーツを使用した商品の発売や「栗あんぱん」「ラムレーズン」などアイテムの充実を図りご好評をいただきました。工場内では作業工程の見直しを行い、経費の削減・品質向上・販売強化に努めてまいりました。

また、仕出し事業においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い多くのお取引先様が自粛を行い、葬儀仕出し・ケータリングパーティとともに売上高は低調に推移する中、新たな試みとして、「MEGURO DELI」ブランドを立ち上げて、新メニュー開発に組み込み、商業施設における催事展開にてご好評をいただきました。

その他の事業は、売上高4億78百万円（前年同四半期比23.3%減）、営業損失2億59百万円（前年同四半期は営業損失22百万円）となりました。

#### 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は342億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億44百万円減少しました。これは主に現金及び預金の減少、有形固定資産が増加したことによるものです。

負債合計は134億6百万円となり前連結会計年度末に比べ9億64百万円減少しました。これは主に未払金、未払法人税等が減少したことによるものです。

純資産は208億13百万円となり前連結会計年度末に比べ3億79百万円減少しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上、剰余金の配当及びその他有価証券評価差額金の減少によるものです。

#### キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ20億2百万円減少して55億34百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は4億86百万円となりました。これは主に、法人税等の支払額4億90百万円、前受収益の減少額3億51百万円、未払金の減少額3億2百万円、税金等調整前四半期純利益3億82百万円、減価償却費4億29百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は11億55百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出14億6百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は3億77百万円となりました。これは主に、配当金の支払額3億57百万円によるものであります。

#### (2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

#### (3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

#### (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

#### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,000,000
計	33,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,025,032	11,025,032	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	11,025,032	11,025,032	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	11,025,032	-	4,036	-	878

## (5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社ライラック	大阪市北区梅田1丁目3-1-700	4,012	43.57
株式会社麻生	福岡県飯塚市芳雄町7番18号	644	6.99
株式会社こやの	東京都港区芝公園3丁目4-30	472	5.13
青木 達也	大阪市北区	330	3.58
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	285	3.10
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	265	2.88
日本ハム株式会社	大阪市北区梅田2丁目4-9	109	1.18
ハークスレイ取引先持株会	大阪市北区鶴野町3番10号	99	1.08
株式会社日本カストディ銀行 (信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-12	95	1.03
住友生命保険相互会社 (特別勘定)	東京都中央区築地7丁目18-24	69	0.75
計	-	6,384	69.33

(6) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,817,500 (相互保有株式) 普通株式 23,400	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,168,900	91,689	同上
単元未満株式	普通株式 15,232	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	11,025,032	-	-
総株主の議決権	-	91,689	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,200株(議決権の数12個)含まれております。また、単元未満株式の欄には、自己株式55株が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ハークスレイ	大阪市北区 鶴野町3番10号	1,817,500	-	1,817,500	16.48
(相互保有株式) 株式会社ほっかほっかフーズ	高知県高知市 旭駅前町43-4	23,400	-	23,400	0.21
計	-	1,840,900	-	1,840,900	16.69

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、協立監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,597	5,534
受取手形及び売掛金	1,299	1,182
商品及び製品	525	608
原材料及び貯蔵品	114	78
その他	1,036	1,102
貸倒引当金	19	22
流動資産合計	10,555	8,483
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,426	6,046
機械装置及び運搬具(純額)	445	487
工具、器具及び備品(純額)	277	245
土地	9,186	9,671
リース資産(純額)	38	30
建設仮勘定	156	73
有形固定資産合計	15,530	16,553
無形固定資産		
借地権	526	523
その他	124	131
無形固定資産合計	651	655
投資その他の資産		
投資有価証券	1,948	1,944
長期貸付金	12	11
敷金及び保証金	5,843	5,700
繰延税金資産	618	574
長期未収入金	537	536
その他	413	306
貸倒引当金	545	547
投資その他の資産合計	8,827	8,527
固定資産合計	25,009	25,736
資産合計	35,564	34,219

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,728	1,816
短期借入金	319	95
1年内返済予定の長期借入金	1,015	899
未払金	853	551
未払法人税等	405	130
未払消費税等	135	51
賞与引当金	200	185
その他	1,956	1,461
流動負債合計	6,615	5,192
固定負債		
長期借入金	2,772	3,362
長期預り保証金	3,950	3,880
繰延税金負債	120	119
退職給付に係る負債	62	64
資産除去債務	466	456
その他	383	330
固定負債合計	7,755	8,214
負債合計	14,371	13,406
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,036	4,036
資本剰余金	3,971	3,971
利益剰余金	15,659	15,524
自己株式	2,269	2,501
株主資本合計	21,397	21,030
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	209	222
その他の包括利益累計額合計	209	222
新株予約権	4	4
非支配株主持分	-	-
純資産合計	21,192	20,813
負債純資産合計	35,564	34,219

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	23,743	17,066
売上原価	18,595	12,251
売上総利益	5,148	4,814
販売費及び一般管理費	4,681	4,633
営業利益	466	181
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	17	14
受取賃貸料	84	98
業務委託契約解約益	58	67
持分法による投資利益	11	11
その他	62	115
営業外収益合計	233	308
営業外費用		
支払利息	10	8
賃貸費用	40	33
業務委託契約解約損	-	7
その他	27	15
営業外費用合計	78	64
経常利益	621	425
特別利益		
固定資産売却益	0	0
受取補償金	32	-
その他	3	0
特別利益合計	36	0
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	17	33
減損損失	0	-
リース解約損	-	8
特別損失合計	18	42
税金等調整前四半期純利益	639	382
法人税、住民税及び事業税	147	116
法人税等調整額	4	42
法人税等合計	152	159
四半期純利益	487	222
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	487	222

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	487	222
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	124	12
持分法適用会社に対する持分相当額	1	0
その他の包括利益合計	123	13
四半期包括利益	364	209
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	364	209
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	639	382
減価償却費	442	429
のれん償却額	2	-
固定資産売却損益(は益)	0	0
固定資産除却損	17	33
減損損失	0	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	25	5
賞与引当金の増減額(は減少)	11	15
受取利息及び受取配当金	17	15
支払利息	10	8
持分法による投資損益(は益)	11	11
売上債権の増減額(は増加)	18	116
たな卸資産の増減額(は増加)	76	46
仕入債務の増減額(は減少)	158	87
前受収益の増減額(は減少)	12	351
未払金の増減額(は減少)	98	302
未払費用の増減額(は減少)	30	135
未払消費税等の増減額(は減少)	82	83
その他	84	156
小計	1,091	51
法人税等の支払額	182	490
法人税等の還付額	107	55
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,016	486
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
利息及び配当金の受取額	18	15
有形固定資産の取得による支出	602	1,406
有形固定資産の売却による収入	346	51
無形固定資産の取得による支出	52	30
差入保証金の純増減額(は増加)	63	67
その他	55	146
投資活動によるキャッシュ・フロー	282	1,155
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
利息の支払額	10	8
短期借入金の純増減額(は減少)	23	223
長期借入れによる収入	-	800
長期借入金の返済による支出	455	326
自己株式の取得による支出	-	232
配当金の支払額	169	357
その他	15	29
財務活動によるキャッシュ・フロー	674	377
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	59	2,020
現金及び現金同等物の期首残高	6,556	7,554
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,616	5,534

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)に記載した、新型コロナウイルス感染症による当社グループ事業への影響に関する仮定について、重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
給料手当	1,873百万円	1,869百万円
貸倒引当金繰入額	12	9
賞与引当金繰入額	179	169

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	6,616百万円	5,534百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	6,616	5,534

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月19日 定時株主総会	普通株式	169	18	2019年3月31日	2019年6月20日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月13日 取締役会	普通株式	160	17	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月23日 定時株主総会	普通株式	357	38	2020年3月31日	2020年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	持ち帰り 弁当事業	店舗委託 事業	店舗管理 事業	物流食品 加工事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	8,665	12,704	364	1,385	23,120	622	23,743	-	23,743
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85	-	-	1,019	1,104	-	1,104	1,104	-
計	8,750	12,704	364	2,404	24,224	622	24,847	1,104	23,743
セグメント利益又は 損失( )	491	433	183	38	1,146	22	1,123	657	466

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フレッシュベーカーリー事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 657百万円には、セグメント間取引消去 0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 657百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社である当社管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	持ち帰り 弁当事業	店舗委託 事業	店舗管理 事業	物流食品 加工事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	8,034	7,073	356	1,123	16,588	478	17,066	-	17,066
セグメント間の内部 売上高又は振替高	65	0	-	958	1,025	-	1,025	1,025	-
計	8,100	7,074	356	2,082	17,613	478	18,091	1,025	17,066
セグメント利益又は 損失( )	497	436	103	53	1,090	259	830	649	181

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フレッシュベーカーリー事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 649百万円には、セグメント間取引消去 6百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 643百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社である当社管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、「その他」の区分に含まれていた「物流食品加工事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

また、報告セグメントとして記載していた「フレッシュベーカーリー事業」について量的な重要性が乏しくなったため「その他」の区分に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

( 1株当たり情報 )

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益	51円88銭	23円99銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	487	222
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	487	222
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,397	9,289
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2020年11月11日開催の取締役会において、2020年9月30日を基準日とする当期中間配当を見送ることを決議いたしました。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月10日

株式会社ハークスレイ

取締役会 御中

協立監査法人

大阪事務所

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 公江 正典 印

業務執行社員 公認会計士 鈴木 宏 印

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハークスレイの2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ハークスレイ及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。